

■ピア部会キックオフイベント報告

(開催日時)令和3年12月24日(金)16:30~18:00

(開催場所)奄美市市民交流センター

1)アンケート集計より抜粋(参加者48名中、37名回答)

(内布さんの講話について)

・アンケートでは「大変参考になった」「参考になった」と回答した方全体の9割を超え、時間についてもほとんどの方がちょうど良いと感じる長さでした。

◎主な具体的な意見

◇ピア

- ・内布さんの前向きで詳しい丁寧な話はわかりやすかったです。
- ・当事者だからこそ、話をずっと聞くことができた。
- ・同じ当事者の立場から回復(現在)に至るまでが聴けて良かった。
- ・とても勉強になりました。わかりやすかったです！！
- ・質疑にもあった「統合機能が…」と場をつなぐことについて、好印象でした。
- ・知らなかったこと「ピア」の話がきけて良かった。
- ・ピア活動の必要性が分かりました。

◇支援者

- ・自分研究は今後生活していく上で皆にとって大切なことだと思いました。とても良いアドバイスをありがとうございました。
- ・ピアサポートについて直接お話が聞けて参考になりました。
- ・自身の体験をお話、聞くことができとても良かった
- ・とてもわかりやすく、いろいろな体験談を聞けてよかった
- ・リアル実体験が聴くことができた。あまりない経験でした。
- ・ピア活動の必要性等が分かりました。いろいろな話が聴けて良かったです。
- ・リカバリーストーリーがとっても分かりやすかったです。自分でも作ってみたいと思いました。
- ・最後のピアへのメッセージがとても響きました。
- ・ピアサポート活動(集まれる場所でも仲間の存在)はとても貴重なことだと感じました。

(意見交換について)

・アンケートでは「大変参考になった」「参考になった」が9割で、時間についてもちょうど良く、支援者がサポートしながらピアの参加者の意見を聴き取りグループで共有していききました。

◎主な具体的な意見

◇ピア

- ・自分の話を丁寧に聞いてくださり励みになっています。
- ・当事者、支援者、ご家族など関わってる人全ての意見を取り入れできること、どうしたらいいかを深く考えられた。
- ・支援者の方のサポートでいいコミュニケーションができた。
- ・意見を言う機会があってよかった。
- ・内容がよかった！！
- ・ピアの方と話ができていろんな意見を聞くことができたので良かった。

◇支援者

- ・初対面の人との意見交換にはちょうど良かったです。

- ・ピアの方と直接話をしたり、意見を聞くことができてよかった。
- ・当事者の方の声を聞く貴重な機会になりました。

2) その他ご意見・ご感想(やってみたいこと等)

◇ピア

- ・体調管理、栄養管理、生活リズムの確立、ストレス軽減、アルコールに頼らない生活の構築。
- ・レッテルのマイナスイメージをプラスのイメージに変えるという新しい思考の転換をしていることに目からウロコが落ちた。またぜひ参加したい。
- ・ピア活動を月1回開催したい。
- ・継続的にピア活動の確認ができる場を望みます。
- ・出来たら責任を取るという意味でもピアサポートの資格を取ってみたいと思う。職員と当事者の立場でできた。

◇支援者

- ・奄美にピア活動の場を！
- ・内布さんからピアサポートの可能性や、必要性を改めて教えてもらいました。得意をのばして新しいことを見つけられるようにサポートしていきたいです。
- ・支援者に対してどんなサポートを希望するのか、当事者さんに話し合ってもらい意見を知りたい。
- ・北部、南部の方が参加しにくいと思うので北部でも今後することができればお手伝いさせてください。
- ・同じ事務所の仲間としか会話をする機会がないので、こういう場をどんどん増やしてほしい。
- ・内布さんのように、当事者でありながら、フルタイムで働いている方がいるということは、現在、治療を受けながら頑張っている方の目標になると思いました。

3) 今後のピア部会について

「興味があるのでぜひ参加したい」「機会があればまた参加したい」がピア、支援者の9割となっていました。

当事者活動の重要性説く

「ピア部会キックオフイベント」

自立支援協

奄美地区地域自立支援協議会（寿山「昭会」）は24日、障がいを持つ人、支援に関わる人を対象とした「ピア部会キックオフイベント」を同市民交流センター3階大目的室で開いた。支援者を中心に約50人が聴講。日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構代表理事の内布智之さん（49）が「当事者活動の必要性と今後のピア活動」と題し講演。内布さんの統合失調症の発症、回復に至る経緯を踏まえた障がいを持つ人などによる「当事者活動」の重要性などについて学んだ。

「ピア」とは、英語「互依存」に近いような「peer」で仲間、悩みを持つ人同士で対等、同等の意味。ピア活動とは、ピアサポートとは「同じ」内布さんは、20代後半、統合失調症を発病後、服薬を続けながら「支え合い」のこと。転じて障がい、アルコール、デイクア（リハビリテーション）を受け、回復とともにピアサポートの活動を開始し、現理事に就任。その経緯を自ら「リカバリス」と名付け、年表として可視化し、公表している。

今回の講演で内布さんはその年表と共に、ピアサポート活動の考えの基本として国連で2008年12月に採択され、日本でも14年に批准した「障がい者の権利に関する条約」とそのスローガン「私たちのことを、私たち抜きで決めないで」を紹介。あわせて、「障がい者などの当事者のことを決める会議に当事者の不在が続く原因は何か」と参加者に問いかけ、当事者活動の必要性とその意味をたずねた。

またピアサポート活動は①ミクロの市町村②メソの都道府県③マクロの国・その活動領域が広がっていることを指摘。改めて、社会における障がい者などによる当事者活動の必要性を説くことも求めた。

同イベントは講話のほかに参加者同士の意見交換、内布さんへの質問の時間も設けられた。

講演を行った日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構代表理事の内布智之氏と話をした。

「地域共生社会は、これによって成り立つ」と話した。

内布さんは講演の最後に、奄美の人々へのメッセージとして「誰も得意、不得意があつて当たり前。今ある能力を守りつつ新たな可能性を信じる」と。自分は工賃5000円から今では東京で一人暮らし出来るまでになっている。責任が伴っている。障がい者、健常者を問わない大事なことを「ピア」と話し講話を続けた。